

No7 持続可能なスマート道路維持業務支援プロジェクト

(代表事業者) 朝日航洋 (連携事業者) 筑波大学、牛久市、小美玉市、土浦市、取手市、守谷市

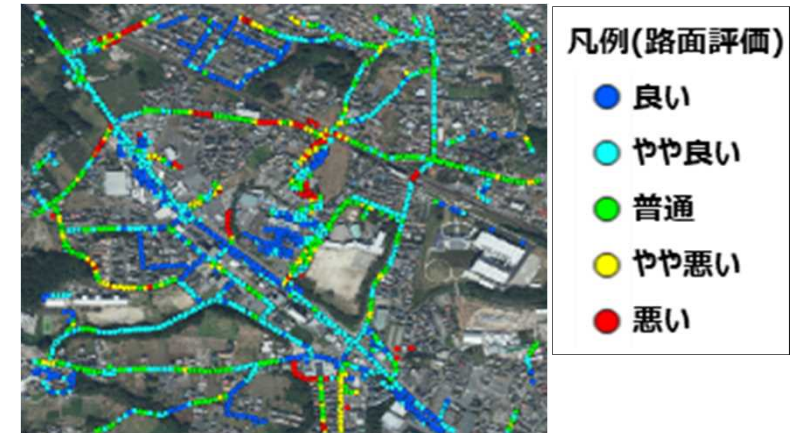
■ 事業概要

県内市町村道をフィールドに、地域を走行する車両のビッグデータ(①)や職員パトロール、住民通報等から得られる情報(②)を活用した2つのDXソリューションにより、道路維持管理業務における予算の有効活用や人員不足等の課題解決に向けた実証試験を行う。

① 車両ビッグデータによる低コストな路面状況センシング



ビッグデータによる路面状況の可視化

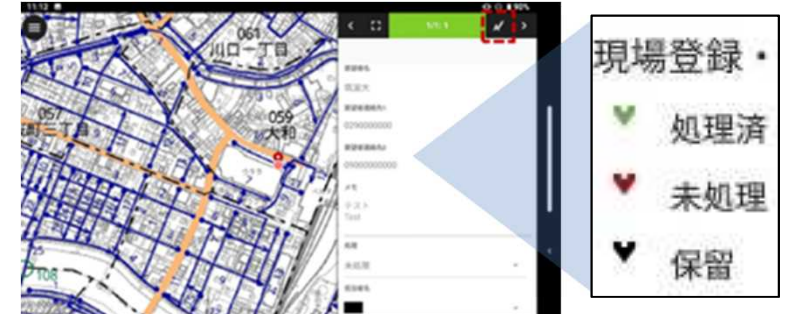


出典：国土地理院撮影の空中写真(令和元年度)を加工生成

② オープンソースGISによる現地・窓口事務の効率化



タブレットによる現地点検記録の効率化

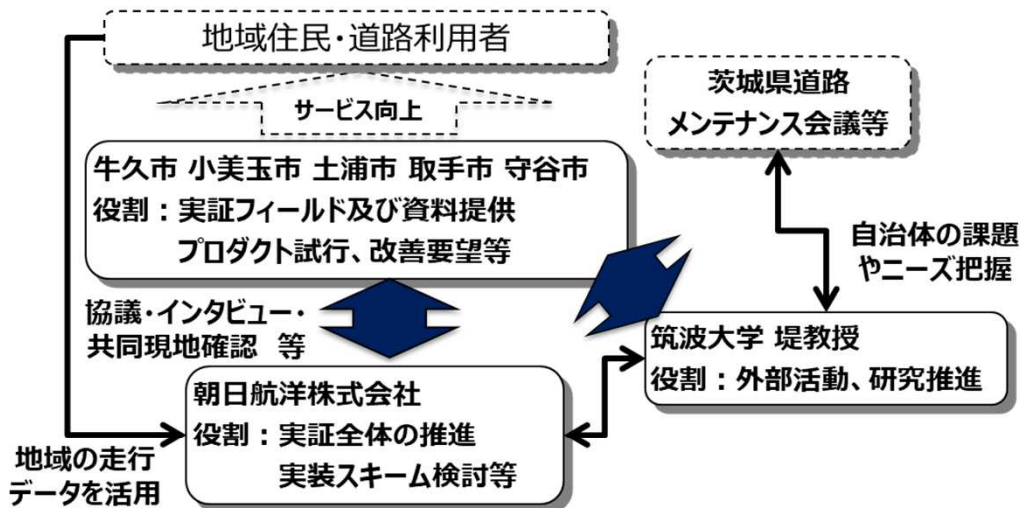


No7 持続可能なスマート道路維持業務支援プロジェクト

(代表事業者) 朝日航洋 (連携事業者) 筑波大学、牛久市、小美玉市、土浦市、取手市、守谷市

■ 実施体制

産官学が連携したスキームにより推進



プロジェクト関係者	役割
朝日航洋株式会社	代表事業者
筑波大学 堤盛人教授	共同研究者
牛久市、小美玉市、土浦市、取手市、守谷市	実証試験への協力フィールド提供等
茨城県	事務局、アドバイザー

■ スケジュール・実証成果目標

実証を通じ市町村における有用性を検証

実証項目	スケジュール	成果目標
ビッグデータの精度検証	机上検証: ~8月 現場検証: 9・12月	市町村における適用可能性「有」
要修繕箇所の優先度整理	修繕箇所抽出: 10月 優先度整理: 12月	優先度整理への活用「可」
交付金申請等への活用	予算要求: 9月 エビデンス作成: 2月	交付金申請等への活用「可」
タブレットの試行利用	窓口活用: 9・12月 現場試行: 9・12月	業務効率化の可能性「有」
自治体ニーズヒアリング	意見交換会の開催: 7・1月	年2回開催
事業計画策定	地域実装に向けた計画立案: 2月	試行導入見込み自治体「有」

■ アピールポイント

ビッグデータによる路面把握は「路面点検のための走行が不要かつ低コストで把握可能」、タブレットによる現場記録等の効率化は「低コストで従来業務を効率化可能」なデジタル技術であり、ウィズコロナを見据えた省人化等との親和性が高いソリューションである。